

# やまなみ

2015  
冬  
vol.12



**【特集記事】** 「スポーツを取り入れた豊かな暮らしづくり」  
～長野県社会福祉事業団における障がい者スポーツの取り組み～

**【連載記事】** 事業所リレートーク  
チャレンジアクション  
「ほのほのハウス」開設!!  
つれづれ福祉  
「J2リーグ松本山雅FCホームスタジアム『アルウィン』にて出張販売」  
トピックス/人事異動/プレゼント

© 松本山雅 FC

祝！松本山雅 FC J1 昇格！

MATSUMOTO  
**Yamaga F.C.**

松本市に本拠地を置く松本山雅FCが見事J1昇格を果たしました！おめでとうございます。

事業団の障がい者支援におけるスポーツ、文化・芸術活動を通して、「松本山雅FC」や「AC長野パルセイロ」のように、地域密着型の社会福祉法人として役割を果たせるよう、関係者の皆さまの一層のご指導とご協力をお願いいたします。

昨年発生しました南木曾町の土砂災害や木曾御嶽山の噴火ではたくさんの方々の尊い命を失うとともに、11月に県北部を襲った長野県神城断層地震も家屋倒壊などの甚大な被害をもたらしました。ここに改めてお見舞い申し上げます。しかしながら、それぞれの災害の中で助け合う人と人の繋がり、地域と地域の繋がりを連日メディア等が報道し、

熱い思いを覚えました。長野県を明るくした話題もあります。県内初のプロサッカーチーム「松本山雅FC」がJ1リーグに昇格しました。また「AC長野パルセイロ」もJ2を目指して奮闘しています。いずれのチームも多くのサポーターを集め、地域密着型のチームであることが自慢です。今回の「やまなみ」では、事業団における障がい者スポーツの取り組みを特集しています。今号で紹介しています「サンアップル」は信州における障がい者スポーツと文化・芸術活動の中核施設として各地でサービスを展開しています。そして当事業団が中心となって開催する「信州駒天駅伝大会」も回を重ね、今年で5回目を迎えます。「駒ヶ岳」と「天竜川」の美しい景色を満喫しながらチーム内外の選手はもちろん、地域の方々との交流を深めるとともに走る楽しさを味わいます。

新年明けましておめでとうございます。今年もひつじ年。ひつじは群れを作って暮らしていることから、仲間との関係が円滑で、フレンドリーで、チームで行動することを得意としているイメージがあります。私たち事業団も地域の中で、そこに住む人たちとの繋がりを社会資源を大事にしながら、それを柱にしてチームワーク良く支援しようと努めています。

今年度の「やまなみ」では、事業団における障がい者スポーツの取り組みを特集しています。今号で紹介しています「サンアップル」は信州における障がい者スポーツと文化・芸術活動の中核施設として各地でサービスを展開しています。そして当事業団が中心となって開催する「信州駒天駅伝大会」も回を重ね、今年で5回目を迎えます。「駒ヶ岳」と「天竜川」の美しい景色を満喫しながらチーム内外の選手はもちろん、地域の方々との交流を深めるとともに走る楽しさを味わいます。



ひつじ年を迎えて思うこと  
長野県社会福祉事業団 理事長 辰野 恒雄

# 「スポーツを取り入れた豊かな暮らしづくり」

～長野県社会福祉事業団における障がい者スポーツの取り組み～

## はじめに

「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」——これは「スポーツ基本法」書き出しの文言です。  
平成23年8月に施行されたこの法律には、「障がい者のスポーツの推進」が明記され、国・県レベルの施策も始まりつつあります。

長野県においては、平成10年に冬期オリンピック、パラリンピックが開催され、障がい者スポーツの理解が深まるとともに多くの人々に感動を与えました。

長野県社会福祉事業団では、同年に開設した「長野県障がい者福祉センター」の指定管理者として県内全域にわたる障がい者スポーツの振興に努めているほか、水内荘、西駒郷等の各事業所（入所・通所）においても、その時代背景に沿った形で暮らしの中にスポーツを取り入れてきました。

今回の特集では、事業団が運営する事業所における障がい者スポーツの取り組みや変遷、そして課題を明らかにし、今後の取り組みを展望します。



## 「施設内完結型スポーツ」から「社会資源活用型スポーツ」へ

スポーツ基本法において、スポーツは「個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定義されていますが、その目的やイメージは各々異なります。

昭和37年に県下初の知的障がい者入所施設として開設された水内荘では、当初「生活訓練・機能訓練」の一環としてスポーツを取り入れていましたが、入所期間の長期化、高齢化、重度化が進む中であって、「高齢化対策と健康保持」を主たる目的に、昭和51年から体育指導員を配置し、スポーツの取り組みを本格的にスタートしました。

この当時は水内荘に限らず、各事業所でスポーツ大会等への参加はしていたものの、基本的に「施設内完結型スポーツ」のイメージが強かったと言えます。

その後、ノーマライゼーション理念の浸透や社会資源の充実、そしてスポーツの専門性の視点から、平成18年度に事業所（入所・通所）への体育指導員の配置を取りやめ、徐々に「社会資源活用型スポーツ」に転化させ、「日々の暮らしの豊かさ」を目的としたスポーツの取り組みへとシフトしてきました。



## 長野県障がい者福祉センター 「サンアップル」の紹介

### サンアップル 「スポーツの歩み」

長野県障がい者福祉センター「サンアップル」（以下「サンアップル」と表記）は、長野オリンピック、パラリンピックが開催された平成10年（1998）4月1日に開所し、長野県社会福祉事業団が指定管理者として運営しています。（平成26年度から長野県障がい者スポーツ協会との共同体「障がい者スポーツ振興グループ」として管理運営）

サンアップルはスポーツ・レクリエーション、文化活動等を通じて、障がいのある方の健康増進と社会参加の促進を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある方もない方も親しく触れ合える県立施設です。

毎年14万人を超える皆様にご利用いただき、平成25年末日を持って延べ200万人を達成することができました。これは長野県民の人口とほぼ同数になりますので、県民の方が少なくとも1回は足を運んでくれたことになりました。

開設以来、サンアップルでは障がいや年齢に応じたスポーツ・運動教室や各種競技大会、運動会などのレクリエーションイベント、障がいやスポーツに関する講習会などを積極的に開催・発信してまいりました。このことは私たちにとって単に回数を重ねて来ただけの時間の経過ではなく、参加された方の「成長」や「前進」を肌で感じるこ



## 事業団事業所(入所・通所)における スポーツの取り組み

現在、当事業団が運営する各事業所(入所・通所)における「社会資源活用型スポーツ」の取り組みを紹介します。



### 長野ブロック「スポーツサークル」の紹介

長野ブロック(6事業所/利用者130人)では水内荘のグラウンドや長野市宮豊野体育館を利用してスポーツサークル活動を行っています。

今年度は町外へも活動場所を広げ、内容も野球観戦や高原散策、バッティングセンターなど、年齢に関わらず楽しめる活動、普段自身では取り組めない活動を増やしました。

結果として昨年度以上にスポーツ好きの利用者が参加しやすいバリエーション豊かな活動になったと思います。(富田)

### 地域のバドミントンクラブに参加



ほっとグループホーム伊北「高遠陽だまりホーム」の伊藤えりさんは本人の希望で昨年6月から毎週木曜日19:30~地域のバドミントンクラブに参加しています。

当初は空振りばかりでしたが、えりさんが「先生」と呼ぶご夫婦にマンツーマンで指導してもらい、ラリーが続くようになりました。

現在では先生と一緒にネット張り、片付け、掃除まで行ってクラブのルール、地域のルール、慣習を教えてくださいながら、毎週楽しく汗を流しています。(宮澤)

### 長野市地域活動支援センターこぶし

#### 奥山 正雄さん

昔はソフトボールクラブや体育の時間があつたのですが、今は月2回のスポーツサークル活動しかないので物足りないです。もっと時間があればいいなと思います。来年度もスポーツサークルがあれば勿論入ります。年1回のソフトボール大会に向けて沢山練習を積んでいきたいです。



### 高遠陽だまりホーム

#### 伊藤えりさん

最近はラケットにシャトルが当たって楽しいし、体を鍛えている感じが、先生にも上手になったと言われるのが嬉しいです。



福祉関係者との関係性を密にして地域に還元したいと考えます。

障がいのある無に関わらず地域のスポーツ指導者や教育、

「運動が苦手な小学生が、遊びながら身体を動かす教室に参加したことを機に、ボール運動や水中活動など取り組める内容が広がり最終的には競技大会に出場するまでに「なった」ことなど、センターの歩みとともに成長する姿を見せてくれた方も少なくありません。

サンスポーツ

地域へ 拠点・人・体制づくり

南北縦に長く広範な県下全域をカバーするために、サンアップルはサテライト施設の設置に取り組んでまいりました。サンアップルから遠方の方のスポーツをしたいという要望に応えるための地域拠点づくりを目指しています。

平成15年の「サンスポーツ駒ヶ根」(県南部)の開設をかわきりに、平成18年「サンスポーツまつもと」(県中部)、平成21年「サンスポーツ佐久」(県東部)、そして今年度「サンスポーツながの」(県北部)の設置をもって長野県全域をカバーする体制が整いました。「サンスポーツ駒ヶ根」におきましては昨年、開設10周年と利用者10万人達成の記念式典を行うことができました。それぞれの地域におけるスポーツ事業の「拠点づくり」と「人づくり」そして「体制づくり」に取り組んでいます。



## 信州駒天駅伝大会 ～タスキをつなぎ、絆を紡ぐ～

信州駒天駅伝大会は「知的障がいのある方々が駅伝競技を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、交流の輪を広げ社会参加の促進に寄与すること」を目的に、当事業団が中心となって開催する「駒ヶ根高原ふくしセミナー」の企画として平成23年から毎年開催しています。



第1回大会でご参加いただいた養護学校のチームの皆さんに、卒業後もこの大会を同窓会のような形で毎年ご参加いただいております。期せずしてこの大会がタスキだけではなく、心をつないでいる存在にもなっていることに、運営側としてうれしさと同時に身の引き締まる思いでいます。

選手のみなさんが、チームのために懸命に走りタスキをつなぎ、チームの絆を一層深めていただくことはもちろんですが、駅伝大会を通して、障がい者と地域との繋がりをより一層太く紡ぐことのできる機会にさせていただければと考えます。

この大会は、地域住民のみなさまはもとより、多くのボランティアの方々のサポートをいただきながら運営しています。この場をお借りして、この大会の開催・運営に携わってくださった全ての皆さまに改めて感謝申し上げます。



(河原崎)

### 駒天駅伝リピーター ほっとワークス・みのわ

高山溪太さん  
(後列右から2人目)

「楽しかったでした。」

### 御家族からのコメント

「養護学校在学中から参加させてもらい、今ではOBチームとして走っています。走ることは大変ですが、同級生と会えることが、とてもうれしそうです。」

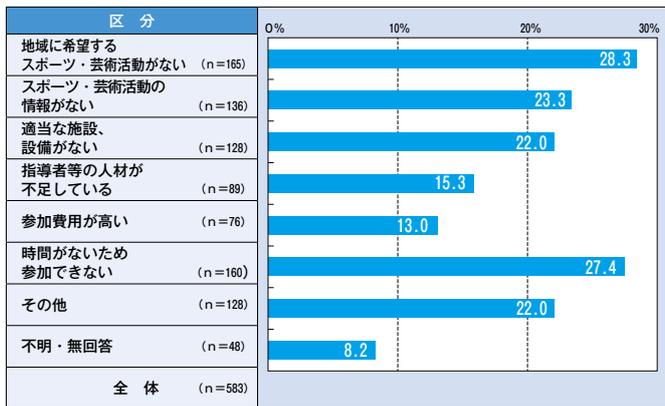


## まとめ

当事業団では運営する各事業所それぞれにスポーツの取り組みを推進してきました。

障がい者の「豊かな暮らしづくり」を標榜する当事業団にとって、「社会資源」として運営する「長野県障がい者福祉センター『サンアップル』」を含め、スポーツは豊かな暮らしを営むうえで事業所必須の取り組みであると言えます。

今回の特集では、暮らしにスポーツを取り入れ、本人の生きがいや交流に繋がっている事例を紹介しましたが、スポーツはまだ「敷居の高いもの」という意識や、社会資源の不足、そして「どこに行けばスポーツができるのか分からない」といった情報不足からその機会を失っている現実があります。



「グラフ」スポーツ・文化芸術活動に参加したいけれど参加しない、現在参加できない理由  
(平成20年度障害者施策総合調査／内閣府)

実際、内閣府が平成20年に行った障害者施策総合調査でもスポーツや文化芸術活動に参加しない理由としてこのような課題が明確に示されています。「グラフ参照」  
特にグループホームでは、情報不足も相まってスポーツと縁遠い暮らしが営まれているが、事業団ではスポーツを取り入れた、「豊かな暮らしづくり」の具現化に向け、左記視点に基づき障がい者スポーツの取り組みを推進したいと考えます。今後ともご理解・ご協力よろしく申し上げます。(中村)

- スポーツに関する情報不足を解消する
- 身近なスポーツから無理せずに取り組む
- 社会資源・外部者・専門家のアドバイスを受ける
- 仲間と一緒に楽しむ



県民誰もが対象とされるイベントですが、障がいのある方の参加は、まだまだ少なく、イベント自体も知らない方も多いため感じます。より多くの参加を得るための手段を考えること、また障がいのある方が来場された際、一般ブリスへの橋渡しを行うこと、そして障がいの有無に関わらず、地域の様々なスポーツ場面への参加に繋がると考えます。(北沢)

## 信州チャレンジスポーツDAY 2014に参加しました (サンアップル)

平成26年10月4日(土)、松本平広域公園を主会場に、「県民誰もが主体的にスポーツに親しむことのできる生涯社会の実現に向けたスポーツに親しむきっかけとなる機会」として「信州チャレンジスポーツDAY2014」が開催されました。

これは長野県のいろいろなスポーツ競技団体が運営主管となる大きな県の事業として今年初めて開催されました。サンアップルも障がいのある方のスポーツを媒介に、単独ブリスでの発表を行いました。パラリンピックなどの大会情報やスポーツ・運動時の用具や工夫などの実技をおとした運動体験などを行いました。



## ① 長野圏域障害者総合支援センター歩楽里

～親子レクリエーションの取り組み～

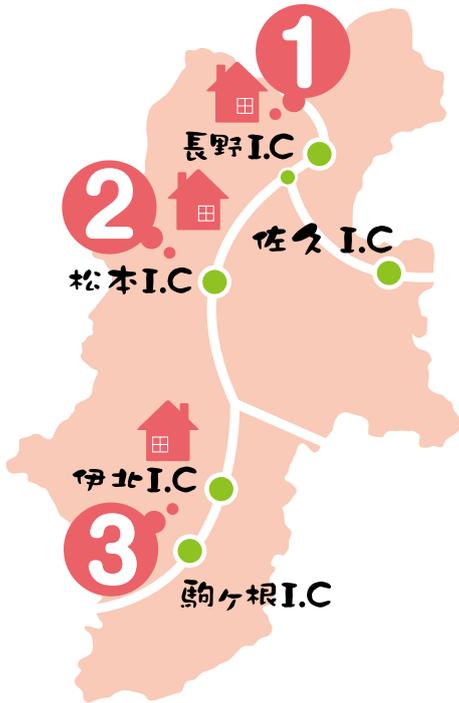


歩楽里は、「小さなセンターから『大きな安心』と『楽しい時間』を届けます」をモットーに、相談支援事業、そして居宅介護事業・移動支援・タイムケア等の地域生活支援事業を提供する事業所として昨年開設10周年を迎えました。

11年目の今年、歩楽里では、「遊びを通して学ぼう」をテーマに、親子レクの一環として、新たに音楽療法士の西山昭美先生

を講師にお迎えし「音楽セッション」を6月、8月、11月の年3回開催しました。親子レクは、多くの家族の皆さんにご参加いただきました。音楽セッションの後には、腕自慢のお父さん方に活躍していただき、6月と8月はBBQ、11月はお餅つきでお腹いっぱい。「楽しかった」「勉強になった」等の感想が聞かれ有意義な時間を過ごしました。

歩楽里では、子ども達の笑顔が職員の次回への意欲につながっていきます。さあ、今日もがんばろー！（石倉）



## ② 松本ひよこ

～ひよこ祭2014過去最高の来場者に～

「ひよこ祭」では地域の皆様との交流と日頃の感謝を込め、パンの特価販売や来場者に楽しんでいただけるステージイベント等を開催しています。今年度は島内地区の民生委員さんをはじめ地域のボランティア、学生さんにご協力をいただき、狭い会場に約250名というお客様で過去最高の盛況振りとなりました。



迫力ある松本あさひ学園の「あさひ太鼓」、ダンススクール「Ruijia」のキッズダンサーによる元気いっぱいのステージでお祭りを盛り上げていただき、辰野町障がい者就労支援センターの「ぬくもり号」の初出店もあり、どれも大変好評でした。



パンの販売と利用者発表では日頃の成果を発揮し、利用者さんが生き生きとした表情をみせていました。陶芸教室で作製した個性豊かな作品は苔玉やミニ観

葉植物と合わせて販売し、次作品の製作意欲へとつながっています。地域の皆様や各事業所のご協力があってこそこの「ひよこ祭」、来年もまたぜひお越しください。

(濱田)



## ③ ほっとワークス・みのわ

～「<sup>めづら</sup>珍し野菜」で感じる信州自然的暮らし～



コールラビと利用者

本年度農園芸班では変わった農産物の生産に取り組んでいます。列举するとアイスプラント、スイスチャード、陸のり、スクプリット、アーティチョーク、コールラビ…。

それらが無農薬・無化学肥料のオーガニックな農法にしました。しかしそれは虫との戦いでもありました。「虫だって生きる権利があるのに人間は身勝手だ。申し訳ないな」と思いつつも利用者と職員は日々虫取りに追われました。利用者からは「毎日虫取りで大変だ。でも農薬を使わないから安心だ～」という声が聞かれました。とは言え虫で穴だらけになり、もう枯れるかと思ったスイスチャードなどが甦り見事に復活した時は作物の生命力に皆で感動しました。そのスイスチャードは研究のため株を分けて欲しいと言う地域の方にお分けしたりしました。利用者は「なんじゃこりゃ」と変わった色や形に驚いたり、「収穫したらどうやって洗うの?」と言ったりしつつも目を輝かせて育てて収穫しました。これらの取り組みで当事業団の経営方針の一つである「信州自然的暮らし」が虫取りと共に?少しでも肌で感じられたかなと思います。(吉原)



スクプリット(左)、スイスチャード



八雲日和の従たる事業所

## 「ほのほのハウス」開設!!

これまでの人生を振り返り、尊重し、これからの人生をより豊かに過ごすお手伝い



八雲日和では、平成26年8月、高齢障がい者（概ね65歳以上）の方を対象とした従たる事業所「ほのほのハウス」を開設しました。  
これは、事業団の第二次長期構想にも盛り込まれている事業の一つですが、八雲日和の生活介護事業においては、かねてより利用されている19人の方々の年齢や障がいの幅の広がりによるニーズや支援内容の違い、安全面の



確保等が課題となっていました。これらの課題に対応し、より充実したサービス提供を行うべく、ため長野ブロック改築検討委員会が中心となって検討を重ね、この度の開設に至りました。八雲日和から車で10分ほどの長野市赤沼地区にある一軒家をお借りし、現



在9名の方が利用されています。活動内容は、利用者さんの希望を取り入れた個別メニューのほか、広い庭を利用しての花壇作りや家庭菜園、時には玄関先での「ほのほのとした家庭の雰囲気」を存分に満喫しています。また、介護、身体及び日常生活能力の維持・向上を目的とした健康体操やストレッチも毎日行い、皆さん楽しく意欲的に取り組んでいます。

数か月活動する中で、利用者間の



在9名の方が利用されています。

会話が増え、昼食時にはテレビのニュースの話題で盛り上がりたり、昼寝ができるなど、以前とは違う変化が見られます。  
今後、利用者の皆さんがより豊かに過ごすお手伝いをさせていただくとともに、地域の清掃活動や行事等にも積極的に参加し、近隣住民の方とも交流を深めていきたいと思っております。  
皆さん、どうぞお気軽にお立ち寄りください。  
(伊東)

### 利用者の声

栗田美津子さん



毎日楽しく生活しています。ここは静かで、昔ながらの「欄間」もきれいでとても気に入っています。同じ世代の仲間と過ごす時間が長いので、会話が弾んで楽しいです。

今は、指編みや、庭の畑の赤かぶりに夢中です。ここに来てから、今まで悩まされていた頭痛も良くなりました。毎日ハウスに来るのが楽しみです。

# 「無謀!?!」にも出店 してしまいました

MATSUMOTO  
**Yamaga F.C.**



「ぬくもり号」で移動販売を行いました！

そもそののきっかけは、「ぬくもり号」の販路拡大と就労支援の期待に加え、郷土が誇る松本山雅FCというビッグネームにあやかっ

それは無謀存の  
から始まった

Jリーグデビュー2014に平成26年3月30日から11月9日までの期間、松本山雅FCのホームゲームで計6回、



# つれづれ福祉



ぬくもり号では、当事業所自慢の生麺を使用しているが故に、茹で時間を要します。よって、おいしいラーメンをいかに回転良くお客様に召し上がっていただけるかが勝負なのですが、スタジアムという大規模施設での販売は不馴れということも

サッカーの母なる  
「ぬくもり号」も成長する

号」を広く知っていただくというねらいからでした。販売の申請にあたって、「出店するからには、目標値を定めていこう！」と、普段販売している自慢のラーメンやうどんに加え、辰野町観光協会様にご協力を依頼し、「ほたる」で有名な辰野町のアビールを兼ねてその名も「ほたる井」を仕入れ販売。スタジアムでは、「ん!? ほたる井?！」とおお客様の注目を浴びていました。また、販売の目標値をクリアするために、スタッフ間で「ぬくもり号」に出来ることは何かを模索しました。「そうだ! 焼き物やドリンク類を売ろう!!」「やっぱり観戦には生ビールが必要だ!」という提案から、営業許可の内容変更、露天商の営業許可の取得に至りました。

1年間の出店で  
目標はクリア

あり、たくさんのお客様をお受けしても、結果お客様を待たせてしまうことになってしまい、そういったジレンマに何度も苦しみました。また、スタジアムの熱気とワクワクした雰囲気は圧倒され、実を言うと、スタッフの方が販売開始当初は右往左往していたのですが、そんな中、利用者さんの頑張り、おもしろい食べ物に下さるサポーターの方々の後押し(?)を受けて、スタッフもやがて無我夢中に! アルウィンでの販売では通常の販売(イベント等)の倍以上の数を提供しました。そして利用者さんも販売や接客などをとおして就労により前向きに取り組むようになりました。

さて、肝心の売り上げは、残念ながら当初掲げた目標値の達成は出来ませんでした。しかし利用者さん、スタッフのいい経験になりましたし、自信にもつながりました。そして何より、目標に向かってチーム一丸となつて前に進んでいく松本山雅FCの姿に大きな刺激を受けました。当事業所の麺やほたる井を召し上がったくれた皆様、そしてこのような貴重な機会を与えて下さった松本山雅FC様に、心より感謝申し上げます!



(落合)

徒然なるままに...他の法人等とのネットワークの中から見える「福祉」を、そこはかとなく書き綴ります。



おいしい! 頑張ってください。

おいしい。並んだ  
かいたあったよ

おいしいです!

頑張ってください。

器がいい。斬新で  
おいしい。

# トピックス

## 第14回全国障害者スポーツ大会 「長崎がんばらんば大会」参加 報告！

西駒郷利用者の合田秀明さんが第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」フライングディスクに参加しました。

初めての飛行機ということもあり、同行した支援員はどのような心配していましたが、全く怖がらず、逆にとても喜んで空からの景色を楽しんでいました。

初めてだらけで、戸惑いや緊張もあり、競技ではいつものような成績を残せませんでした。貴重な経験をする事ができました。



## 長野県障がい者文化芸術祭「作品展」 「手芸部門」で最優秀賞受賞！！

昨年9月に開催された第17回長野県障がい者文化芸術祭「作品展」の手芸部門で、西駒郷利用者、石田宏さんの作品が最優秀賞（知事賞）に輝きました。（写真は西駒郷での受賞式の様子）



輝きました。（写真は西駒郷での受賞式の様子）

## 第4回駒ヶ根高原ふくしセミナー 開催日決定!!!

「地域でのより豊かな暮らし創り」をテーマに、講演・シンポジウムやカラオケ大会、各種コンテスト等、お楽しみ盛りだくさんの当事者参加型セミナーを今年も開催します。

テーマ「社会資源とネットワークの発信（共生）」  
開催日：平成27年6月26日（金）～27日（土）  
場所 富田村民会館ほか（上伊那郡富田村）

この楽しいセミナーに多くの皆様のご参加をお待ちしています。



詳細は高原セミナー実行委員会（026-228-0337）までお問い合わせ下さい。



作品名「舞」

くだけさ。

チラシなどを手指でこより、紙に貼りつけたこの作品は「ユニークで突出していた」と審査員からコメントをいただきました。  
なお今回の受賞作品を含む優秀作品展を県内各地で巡回展示します。詳細は長野県障がい者福祉センターホームページのホームページをご覧ください。

# 人事異動

## 事業所間異動等

（平成26年10月1日付）  
長野圏域障害者総合支援センター  
歩楽里  
支援員／仲田瞳（兼）  
ほくとグループホーム伊南  
支援員／宮澤澄恵（兼）

（平成26年11月1日付）  
事務局  
企画課長／塩沢総夫（兼）  
主事／森美彩（松本ひよこ支援員）

## 松本ひよこ

支援員／小林明善（西駒郷支援員）  
支援員／牛丸幸一（信濃学園支援員）

## 西駒郷

ひまわり支援課／宮澤和夫（松本ひよこ支援員）

## 退職

（平成26年10月31日付）  
事務局  
次長兼企画課長／林博幸

## プレゼント



### 「松本ひよこ」

支援員  
内川 敬子  
からのメッセージ



### ◆自家焙煎挽きたてコーヒー豆

松本ひよこでは、毎日焼きたてのパンを販売していますが、パンの他にも、ブラジル・サントス産の生豆を使用し、焙煎した豆を挽いて風味バック詰めした自家焙煎の挽きたてコーヒー（豆）が隠れた人気を集めています。

今回は、その「自家焙煎挽きたてコーヒー豆」をプレゼントいたします。

焼きたてパンとも良く合う風味の良いコーヒーをコーヒー通の方もそうでない方も、是非一度ご賞味下さい。

事業団日より「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部（事務局）までお寄せ下さい。

3月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「松本ひよこ」の「自家焙煎挽きたてコーヒー豆」500gを5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。（プレゼントの発送は4月頃を予定しています。）

長野県障がい者福祉センターのサテライト施設、「サンスポート」は「どうしてスポーツではなくスポーツなのですか」という質問をよくいただきます。「Sports」の代表的な解釈として「競争性のある運動競技」とされています。そこから語尾の「s」をひとつ取ると「Sport」「規約・ルールのない身体活動」という意味になります。スポーツ活動はこうあるべきと考え、なかなかその一歩が踏み出せず身構えてしまいが、広く「身体の動きや外からの刺激」と考えれば、障がいのある方もほとんどの方が取り組むことができます。サンスポートの名称はそのような「思い」が込められています。（北沢）

## 編集後記

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人  
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F  
tel：026-228-0337 fax：026-228-0310  
URL：http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/